

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	関西バイト(株)平塚事業所事務厚生棟	階数	地上3F
建設地	神奈川県平塚市東八幡5丁目4-1	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	90人
気候区分		年間使用時間	2,000時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年4月 予定	評価の実施日	2013年5月13日
敷地面積	4,050 m <sup>2</sup>	作成者	鹿島建設株式会社
建築面積	1,593 m <sup>2</sup>	確認日	2013年5月14日
延床面積	3,422 m <sup>2</sup>	確認者	鹿島建設株式会社



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.6**

S: A: B+: B-: C:

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したもので、kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 3.4**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.1

**LR のスコア = 3.5**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> ・喫煙室、リフレッシュコーナーを設けて、従業員環境、機能面の向上。・開閉可能な窓やバルコニーライトを設けて、自然採光・換気ができる省エネルギーな建物を実現。・バルコニー、バルコニーを採用した、日射遮蔽による空調負荷の低減。・発電機付きGHP(ガスヒートポンプ)の採用による、非常時のバックアップ対応。・BEMSを採用した、エネルギー管理と制御によるエネルギー消費量の削減。		0
<b>Q1 室内環境</b> ・会議室において、遮音等級45dB以上の間仕切りを採用。居住域の上下温度差、気流速度が少なくなるよう配慮された給排気計画・バルコニーライトの設置・ローカル・横断の設置・人感・昼光センサーを採用・喫煙パースの設置	<b>Q2 サービス性能</b> ・事務室の天井高さ H=2.7m以上・防汚性の高い仕上げの採用+外部露出金属部の防錆対応・発電機付きGHPによる熱源の二重化+吊り配管の採用・節水器具の採用+配管システムを区分した、災害時の使用不能部分の低減	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> ・緑地による良好な景観形成+圧迫感を軽減する外壁面のセイルック・バルコニーライト+自然換気システムの採用・BEMS導入による各種エネルギー消費量の把握が可能・運用、維持、保全の基本方針+年エネルギー消費量の目標値設置
<b>LR1 エネルギー</b> ・バルコニーライト+自然換気システムの採用・BEMS導入による各種エネルギー消費量の把握とシステム性能の評価が可能・運用、維持、保全の基本方針+年エネルギー消費量の目標値設置	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・節水型機器の採用・非構造材料におけるグリーン調達品、Eマーク等、リサイクル材を2つ以上採用・持続可能な森林から産出された木材の使用比率が50%以上・部材の再利用可能性の向上・汚染物質含有材料の使用回避(ビニルシート用接着剤、建具・構造物塗装、サッシ・ガラス用シール)	<b>LR3 敷地外環境</b> ・駐輪所・管理者車両用の駐車施設の確保、駐車場への導入路確保・「光害対策ガイドライン」「広告物照明の配慮事項」の過半適合

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ライフサイクルCO<sub>2</sub>とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される